

青銅合金 鑄造用地金

JIS H2202
日本工業規格表示工場
製造元

ミカゲ金属工業(株)

三重県安芸郡安濃町字日暮2222-2
電話 059-268-2206(代)
FAX 059-268-1949
販売元

ミカゲ金属株式会社

大阪本部
大阪市中央区博労町3-6-7三都ビル2階
電話 06-6244-3115(代)
FAX 06-6244-3116
東大阪倉庫
東大阪市長堂3-11-20
電話 06-6782-3115(代)
FAX 06-6782-3143

銅・下銅
真鍮・ステンレス
アルミ

現金買入れ

新賀金属

八尾市太田新町7丁目24

電話 072-949-9750
FAX 072-949-9462

日刊メタルレポート

発行所
株式会社 日刊金属新聞社
本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
社電 電話(06)6932-5443代表
北陸支社 富山市曙町1-30-508号内
電話(076)444-6836
購読料 半か年44,100円(前納)3か月22,050円

輸入は新地金二・六%減

輸出はスクラップ一〇・三%増

橋本健一郎氏リポート②



橋本健一郎氏

【概況】一月前半は欧州債務問題に関して、スペイン・ポルトガル債の入札が順調だったこと。またECBドラギ総裁が「安定化の兆しがでてきた」とのコメントを好感、更にダウジョーンズスコモディティインデックスがアルミのポジションをプラス一・三%を引き上げた事を好感。二、一〇四ドルと約八〇

ドル上昇での前半締めとなった。
後半は米格付け会社フィッチによるイタリア債の二段階格下げや、ギリシャ政府の民間企業の債務交換会合の結論延期などマイナスマテリアルもあったが、中国GDPが予測より悪かったものの比較的堅調だったこと、FOMC声明が低金利継続であったこと、それによる追加的緊急緩和(QE3)期待から上昇。
二月一日現在 LME(現物後場) 二、二五八ドルの一・一〇ドル強上昇のスタートとなった。

【前月の経済指標】

- ◆日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前月比一・一%増の八四万八、二〇八台であった。
- ◆日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前月比一八・六%増の二六万三、二六七台(前年比四〇・七%増)。
- ◆三カ月間の自動車生産計画は昨年対比四九・一%増の二八四万二、五〇〇台。

マレーシアが暫定的操業免許付与

豪ライのレアアース製錬所に

マレーシア当局はこの程、豪ライナスのレアアース製錬所に暫定的な操業免許を付与した。同製錬所をめぐることは、選挙を数カ月以内に控えていることもあり、住民らの反対で操業が許可されない可能性がある、との見方もあった。当局は「これは暫定的な免許で条件付きだ。条件が満たされていないと判断すれば停止や取り消しとなり、再申請は認めない」としている。政府高官によると、免許付与に関する最終的な決定はラザク首相が下す。ただ、製錬所の建設地選出の野党議員は、住民の健康への影響を理由に製錬所建設への反対を訴え、司法の場で争う構えを示している。

レアアースは、スマートフォンやハイブリッド車の生産に欠かせないが、現在はほぼ中国の独占状態にある。ライナスのマレーシア製錬所で中国支配が崩れるのか注目される。日本は二〇一三年初頭までに、年八、五〇〇トンのレアアースをライナスから調達する意向を示している。

△面へ続く

圧延品、合金とも生産減少 比前月

(一面より続く)

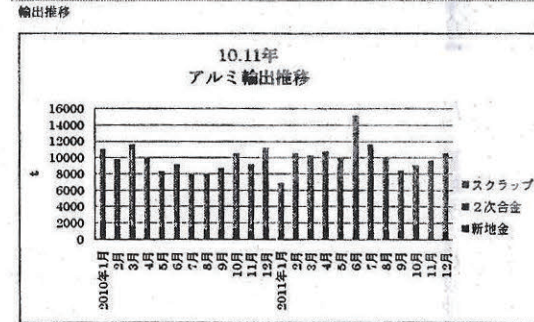
◆新設住宅着工戸数

国土交通省によると、新設住宅着工戸数は前月比(季節調整済み)五%減(昨年比七・三%減)の六万九、〇六九戸であった。

◆貿易関連指標

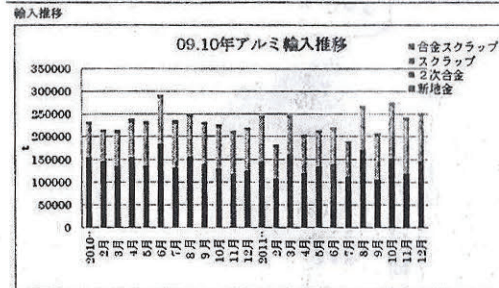
財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前月比二四・六%減の一六六t、二次合金が二・九%増の七三七t、スクラップが一〇・三%増の九、六八三t。

	10月	11月	12月
輸出			
新地金	157 t	167 t	126 t
前月比	+214%	+6.4%	-24.6%
二次合金	1624 t	716 t	737 t
前月比	+87.5%	-55.9%	+2.9%
スクラップ	7275 t	8778 t	9683 t
前月比	-3.6%	+20.7%	+10.3%



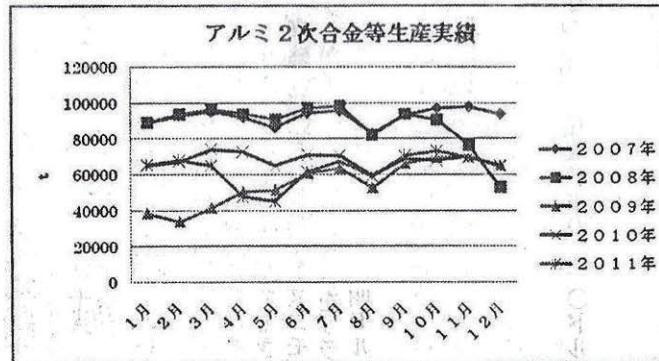
出典 財務省貿易統計

	10月	11月	12月
輸入			
新地金	15万3427 t	12万474 t	14万6481 t
前月比	+43%	-21.6%	-21.6%
二次合金	11万6371 t	11万6755 t	10万1202 t
前月比	+22.3%	+0.3%	-13.3%
スクラップ	843 t	558 t	767 t
前月比	+27.5%	-33.8%	+37.5%
合金スクラップ	5710 t	5711 t	4843 t
前月比	+22.4%	0%	-15.2%

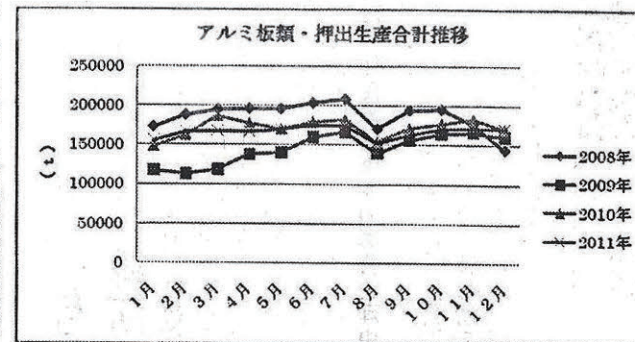


出典 財務省貿易統計

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前月比六・九%減の六万四、九一〇tであった(昨年対比〇・三%減)。(六面に続く)



出典 日本アルミニウム合金協会



出典 日本アルミニウム協会

【前月の国内指標】
日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前月比六・八%減の一七万〇、一一一t(昨年対比六・二%増)。

アルミスク
ラップ相場 五〇円上昇の可能性合金塊メ
「カー」新年度に向け購入を積極化も

二面より続く

【見通し】

自動車関連は堅調、それ以外は二カ月連続在庫調整の月となった。

自動車生産は前年比一三・四%増の八四万八、二〇八台と五カ月連続上昇、ついに震災前の水準を大幅超える結果となった。

また国内自動車販売台数も二六万三、二六七台と前年比四〇・七%増と急上昇、また一、三月の自動車生産計画が四九%増と自動車関連は絶好調。

しかし自動車関連のアルミ二次合金生産は、前月比六・九%減の六万四、九一〇t。昨年対比〇・三%減と二カ月連続調整中今後、供給不足が懸念される。

その他、家電需要が見込める圧延・押出品生産数は前月比六・八%減の一七万〇、一一一t。昨年対比六・二%増と小幅回復。

ただ新設住宅着工数は季節調整前月比五%減の六万九、〇六九戸。前年比は七・三%減とここ数カ月一進一退、急回復はなくこの調子が続きそうである。

輸入塊は上海シグマが十二月末現在で二、三〇〇ドル(変わらず)、ロシア塊は二、二〇〇ドル(プラス一五〇)と上昇している。

輸入は新地金が前月比二二%減の一四万六、四八一t、自動車関連の二次合金も一三・三%減の一〇万一、二〇二t、合金スクラップは一五・二%減の四、八四三t、スクラップ

ソブリン
格下げが借り入れコストを押し上げ

最大で一ポイントECB指摘

欧州中央銀行(ECB)は二日、格付け会社がソブリン格付けを引き下げると、当該国の借り入れコストが最大で一%ポイント押し上げられる可能性がある、と指摘した。

格付け会社をめぐることは、タイミングを考えずに格下げしてユーロ圏債務危機をますますあおっている、との批判が出ており、ECBは今回、格付け会社の問題に関するリサーチペーパーをはじめてまとめた。

そのなかでECBは、格付け会社は市場に追随するだけでなく、市場を主導している、と指摘。格付け会社の決定による影響は、対象となった国のみならず、それ以上に幅広い

プは三七・五%増の七六七t。スクラップに関しては多少手当が進んでいるものの、新地金に関しては二カ月連続で減少、今後供給不足が予測される。

輸出は新地金が前月比二四・六%減の一二六t。二次合金が二・九%増の七三七t、スクラップが一〇・三%増の九、六八三t。好調な自動車生産計画に二次合金メーカーが疑心暗示な面があり、現代的な調達を拒んできたが、二月以降、新年度むけて積極的な購入が期待される。

LME価格について、中国金融緩和と政策やFRBによる追加的金融緩和(QE3)期待から小幅上昇してきた。今後は中国需要の鈍化を背景に小幅の下落はあるもの、すでに生産コスト近辺が現在の水準であることから現在の二、〇〇〇〜二、二〇〇ドルを予測。

アルミ原料需要・価格に関して期待の新設住宅着工数は七・三%減(前年比)とまたも低迷、右肩上がりの回復は見込めないものの、今月も最大の需要家である自動車メーカーの自動車販売・計画共、約四〇%増と好調維持、前月に続き販売、計画の伸びに比べ前年比一三・四%増と伸びが小さい生産は今後急増すると思われる。また二次合金生産も〇・三%減(前年比)と調整が終了、供給不足が考えられ今後はこちらも生産が急増するのとの予測から、スクラップ価格については十二月後半価格から五〇円高を予測。

範囲に及ぶとの見解を示した。

ECBは「われわれは今回、格付け見直しはユーロ圏ソブリン債市場に大きな影響を及ぼす、との結論に至った」としたうえで「平均的にみて、スタンダード・アンド・プアーズ(S&P)が一段階格下げすると、ギリシャは九八ペーシスポイント(bD)、アイルランドは六五bp、ポルトガルは三三bp、スプレッドが拡大している」としている。S&Pは二〇〇九年一月以降、ギリシャの格付けを七回引き下げており、同国の格付けは「A」から「C」に下がった。その間、同国の一〇年債利回りは、五%程度から三五%超に上昇した。